

右萬石以上之隱居、部屋住之面々も、差上候様可被相觸候、

〔徳川禁令考^三年始嘉節〕年頭、八朔、歳暮御禮罷出候町人、献上物覺

年頭献上物 金貳拾兩、後藤庄三郎、紅絲壹斤、銀座年寄、銀壹枚、宛銀座大勘定役、同戸棚

勘定役、同戸棚役、銀貳拾枚、銀座總中、紅絲二斤、大黒長左衛門、朱百兩、朱座、紅白縮緬拾

端、爲替御用相勤候者共十人組、色縮緬五端、右同斷三井組、

右之通、御本丸^江例年献上仕、年始御禮申上候、

金拾兩、後藤庄三郎、紅絲壹斤、銀座年寄、銀壹枚、宛銀座大勘定役、同戸棚勘定役、同戸棚役、

銀拾枚、銀座總中、紅絲壹斤、大黒長左衛門、朱百兩、朱座、紅白縮緬五端、爲替御用相勤候

者共十人組、色縮緬三端、右同斷三井組、

右之通、西丸^江例年献上仕、年始之御禮申上候、

〔正寶事錄^六〕天和二^壬戊年

覺

一來亥正月、西之御丸^江御年頭之御禮ニ上リ候儀可有之候間、總町中献上物、御本丸之半分ニ仕

筈ニ有之間、銘々之献上物も其致、心得支度可被致候、献上物も致書付、今明日中ニ樽屋所^江持

參可被申候、少も遅々有之間敷候、以上、

十二月廿六日

町年寄三人

〔享保集成絲綸錄^五〕享保六丑年十二月

申渡

一町中御年頭献上物之内、只今迄之品相減來寅正月三日、總町中献上物、

御樽^{貳斗入拾} 熨斗百把^{但二毫}